

 開校明治七年 開校150周年 大和田小だより 学校教育目標 かしこく やさしく がんばる子 地域と伝統に支えられ、本年度開校150周年を迎えました。	めざす学校像 子供の自己有用感を実感させ、主体的・協働的な学びを実践する学校 ～すべての子を大和田小の光に～	6・7月の生活目標 時刻を守って生活しよう ・通学班の集合時刻を守る ・チャイム音席 ・最終下校時刻は15:20
	7月号 令和6年6月28日 新座市立大和田小学校 児童数 746名・学級数 27学級	

文月 同学年でのふれあい ～修学旅行今むかし～ 校長 近藤 章宏

修学旅行に思うこと

6月中に6年生が1泊2日の日程で日光方面へ修学旅行に行っていました。2日間ともに好天に恵まれ、やや涼しい空気の中で、予定していた見学場所をめぐることができました。何よりも6年生156名全員が参加できたことが嬉しいことでした。

初日は修学旅行のメインの日光東照宮見学です。開門直後の時間に到着できたので、まだ観光客や他の学校が到着する前の空いているうちに見学することができました。東照宮の最奥には家康公の墓があり、至るには相当な階段数なのですが、ほとんどのグループが最後まで登り切っていました。



宿泊先のホテルは2年前からお世話になっており、11階建ての鬼怒川に面したとても素敵な施設を大和田小学校で貸し切りです。おいしい夕食の前後でお風呂とふくべ細工体験のローテーションです。個性豊かなお面ができあがりしました。

二日目の午前中はまず華厳の滝の見学の後に修学旅行のクライマックスの戦場ヶ原ハイキングです。木道を歩きながら日光の自然を満喫することができました。

今から100年前の大正12年頃の本校の修学旅行は1泊2日で鎌倉・江ノ島方面に行っていたそうです。当時はバス旅行というものはありませんでした。既に東武鉄道は開通していましたので、志木駅から汽車を乗り継いで、鎌倉まで移動したようです。当時の思い出として、汽車に乗っている時間が相当長かったことがあげられます。でもその長い時間も友達といっしょにお話をして過ごすことができることが、とても嬉しかったようです。また旅館の大部屋でみんなで一緒に寝たことがとても楽しい思い出だ



100年前の江ノ島修学旅行

ったことが伝わってきます。

当たり前のことですが学校は普段は同じ年齢の人同士でクラスや学年で一緒に活動しています。しかし同じ年の人たちと、何かを協力してやり遂げたり、ふれあったりすることができるのは学校にいる間だけの貴重な時間です。大人になってからはそのような機会はほぼないでしょう。同じ年齢の仲間と協力して様々な体験ができる「今」を大切にしたいと思います。またその思いは今もむかしも変わりありません。

開校150年の沿革（3）

今から77年前、戦後間もない昭和22年(1947年)4月に現在の教育基本法に則った、現在までつながる新制教育制度が始まりました。この時に本校は「大和田町立大和田小学校」と改称し、今に至っています。校舎は引き続き木造の校舎のままです。児童数は643人です。戦後の物資不足の中、教科書はなく自分たちで、紙に写したものを使って勉強していました。給食もまだなく、子供たちはお弁当代わりに



さつまいもなどを持参する子も多くいました。昭和25年には木造校舎の中に図書館を設立しました。子供たちの楽しみのために、地域の方々が木の実や野菜を集めたりして資金をつくって、蔵書を寄贈してくれました。その後も読書指導と図書館教育は充実し、読書活動推進への協力に関して、県から本校のPTAが表彰されました。昭和30年には大和田町と片山村が合併して、「新座町」になりました。当時東京近郊のベッドタウンとして日本一の人口増加率となり、児童数も増加の一途をたどり、昭和38年に木造校舎を取り壊し、鉄筋コンクリートづくりの3階建ての校舎に建て替えられました。当時の児童数は796人です。また同年には給食もはじまり、現在の校歌も制定されました。

